

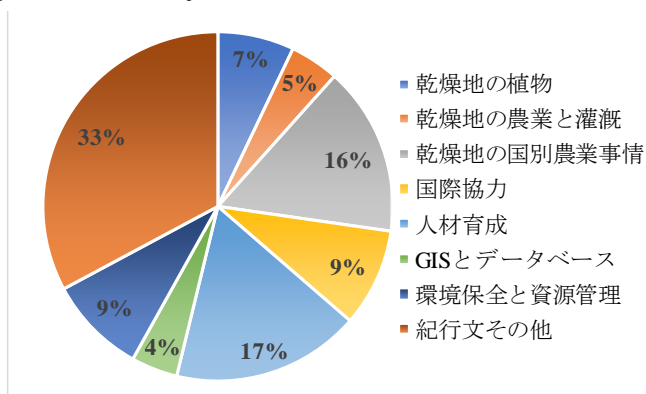


人と農と環境をつなぐ技術を考える

ニュースレター第 100 号の発行にあたって

AAINews は 1995 年 10 月の創刊以来、それぞれの社員が業務を行いながら経験したこと、考えたこと、感じたことなどを A4 サイズ、4 ページのニュースレターとして発行してきました。当初、このニュースレターはアサインの関係上事務所で顔を合わせることの少ない社員間の情報交換のツールとしての意味合いが強かったのですが、次第に送付先の数も増えてきました。そして、今では我々の取り組みを多くの関係者に知って頂くための重要なツールとなっているように感じています。

この度、第 100 号の発行に当たって、その内容を振り返ってみました。2014 年の会社創立 30 周年を機に記念版を出版しましたが、その際にそれぞれの記事を、乾燥地の植物、乾燥地の農業、国際協力、人材育成、GIS・データベース、資源管理等の章に分けました。これを基に創刊号から 99 号までの記事を分類すると、以下のような傾向になりました。



紀行文その他が全体の 1/3 を占めていますが、これは各号 1 ページ目が紀行文で 4 ページ目には時の話題などを盛り込んだ結果です。その他の中では乾燥地関連が 30% 近くを占めており、国際耕種が乾燥地域における技術協力活動に力を注いで

きた結果と考えられます。国際協力や人材育成関連記事に関しては、海外での技術協力活動と JICA 筑波での研修業務を考え合わせることで、全体として多くのシリーズを企画することが出来ました。様々な業務に GIS やデータベースを活かしつつ、農業だけでなく環境保全や資源管理分野の業務にも携わってきたことも窺えます。このように過去のニュース記事の分類結果から、国際耕種の足跡がより浮き彫りにされたように感じます。

多くの記事に共通してそのベースにあるものは、社名「国際耕種」の英語名にある「Appropriate」という言葉に代表される、『適正技術』、『適正規模』、『住民参加』等の視点です。「乾燥地の植物」では地域資源としての植物の利活用を通じた適正技術の重要性を強調し、「農業と灌漑」では持続可能性という観点から適正規模に関する考察を深めました。「国際協力や人材育成」では、NGO との連携や草の根型協力を提案し、多くの研修普及活動における参加型アプローチの重要性を強調してきました。

「アラブの春」以降の中東地域における政情不安の影響もあり、国際耕種の海外における活動拠点は中東地域から東アフリカ地域に、そして業務内容も沙漠緑化や灌漑開発から生計向上や資源管理といった分野に移行しつつあります。地域や分野が変わっても、これまでに培ってきた「思い」や「理念」を大切にしつつ、今後も現場目線のニュースを発信し続けたいと考えています。誌面のデザインも一新して、新たな気持ちで臨みたいと考えていますので、引き続き我々のニュースレターに対するご意見やご感想を頂けると幸甚です。

(2018 年 2 月 大沼)